

兀魯特と
額魯特の
辨

す、而して哈薩克は額魯特領隊大臣に直屬す。

蓋し錫伯は奉天(滿洲)より、索倫は黑龍江岸よりの移住民(屯田兵)額魯特は蒙古人種にして、準噶爾の遺民なり。又歸化城の北方に兀魯特ウルトと稱する處あるも、額魯特アルトとは異なりとす。兀魯特民は正しき蒙古語を用ゆるも、額魯特は其の語土爾扈特族と同じく蒙古語を用ゆるも轉訛多し。又察哈爾は張家口一帶の稱呼にして、該地方より移住せし蒙古族なり。

滿人中、新舊の稱へあるもの、其の舊滿は、眞の旗人にして、新滿は、錫伯より補充せるを以て此稱あり是等の各人種中、同治回亂の際、滿人、索倫は力戰奮闘、殆んど陣亡し盡し、錫伯は回徒に内應して、纔に難を免れたりと。

綏定城

綏定城スイチンは、惠遠城の北約一里餘に在りて、城壁高さ一丈七尺、周圍二十四町に餘れり。殊に其の城壁は、石を以て基礎とし、土を以て内を實し、外甃むに石或は磚を用ひ底厚頂厚共に一丈五尺、東西南の三門を設け、各門前には月牆を置き、門上櫓樓ををこし、其の工事の洪大なる、築造の堅實なるは、他城の比に非らず。城内には伊犁府、綏定縣、鎮臺衙門等ありて、人家約二千戸、過半は纏頭回とす。市街は二條の大街